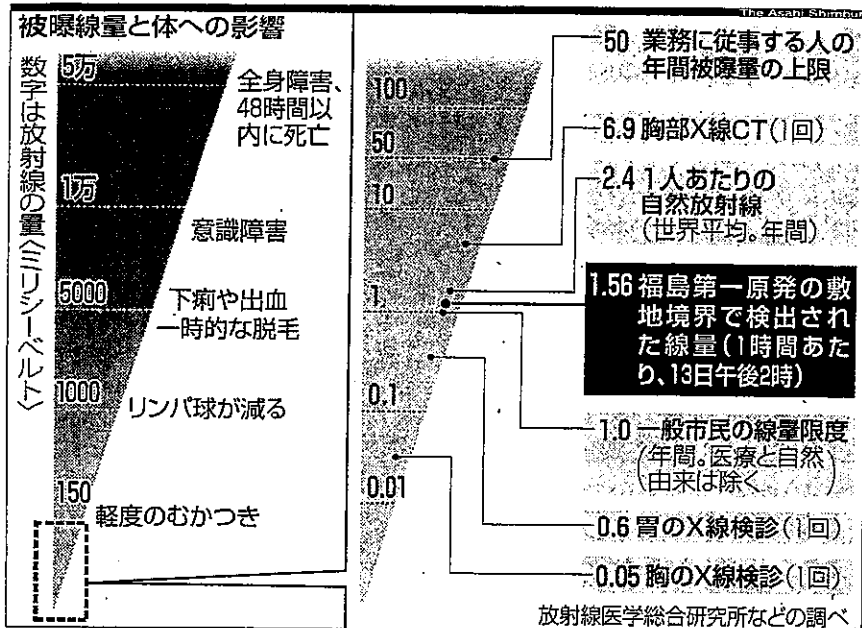




原発



被曝(ひばく)の疑いで運び込まれる被災者=1

被曝したら？健康被害は？

体に付着なら除染必要

福島第一原子力発電所の敷地境界で、高いレベルの放射線が検出された。多数の一般住民が被曝したことも分かった。ただし、専門家や政府は、たまたま健康に影響を与える値ではないと説明している。

「敷地境界で観測された値は最大値においても1557マイクロシーベルト。胃のX線検診を3回分弱という数字です」。

枝野幸男官房長官は13日、記者会見で、危険性が低いことを調した。

私たちは普通に生活してい

ても、宇宙や大地から、1年間で2400マイクロシーベルト(1マイクロシーベルトは千マイクロシーベルト)の放射線を浴びている。一度に大量の放射線を浴びた方が体へのダメージは大きい。胸部のCTスキャンの1回の放射線量は6900マイクロシーベルトだ。

ただ、敷地で計測された数値が、そのまま人体への被曝量と同じというわけではない。

1999年に茨城県東海村で起きたJCO臨界事故では、中性子線が漏れ、周辺住民ら660人以上が被曝した

が、00年に専門家が健康影響を検討した結果、住民らの被曝量は明らかに健康への影響が出る値ではないとされた。

当時、住民の対応にあたった大倉久直・元茨城県立中央病院長は「報道を見ている限り、今回の被曝線量も、すぐに人体に影響を及ぼすレベルではない」と指摘する。

被曝には、体の外から被曝する「外部被曝」と、放射性物質を吸い込んでしまう「内部被曝」がある。

錬石和男・放射線影響研究所顧問によると、外部被曝は

かじっていたか、1.Eカミにコミや報道などで聞きつけた人も次々と訪れ、職員は対応に追われた。

検査は郡山市保健所や消防署、県職員ら15人ほどで対応。保健所職員は12時間交代で休みなく検査を続ける。ある消防署員は「検査、除染の訓練は何度も行ってきたが、実際にやるのは初めて。それを何千人にもすることになるとは、信じられない」と嘆いた。「みんな怖がり、不安に思っている。放射能は目に見えないものだから」。除染の

よる人工的な放射線はどんなに微量であつても計測され、「被曝」とされる。治療の対象となる基準値はないが、身体表面などに放射性物質が付着すれば、服を脱いだり、シャワーなどで全身を洗う「除染」を行う。体の表面に物質が付着していた場合には、タオルを使って生ぬるい湯で洗い流すのが基本。せっけんや水でよく洗えば、皮膚表面の汚染は除去できる。

内部被曝が起きてても、微量であれば、いずれ体外に排出される。浅利靖・弘前大学教授(救急・災害医学)によると、放射性物質がヨウ素の場合、事前に放射性のないヨウ素剤を飲むことで、予防できる。しかしヨウ素剤には副作用もあり、むやみに飲むのは禁物だ。

の男性医師は河市にある所に車で、首や手先、を1人数分と通常の職員から「お袋に入れ、口の湯でタオルを拭き、服の格好のまいた。もう関係ないレベルだ」

被曝(ひば)れ、放射線後0時28分